

## 同盟の再編と東アジア平和のための日韓市民連帯

李俊揆(イ・ジュンキュ、平和ネットワーク政策室長)

### 1. はじめに

0 最近韓国では「親日人名辞書」<sup>1)</sup> 編纂の問題が話題になっている。特に一部の右翼団体はその動きは「自虐史観」であると批判している。しかし野党やほとんどの市民団体は支持。たとえば、ある野党<sup>2)</sup>は「未来のための過去への回想」であると評価した。

0 今日私が主催側に頼まれたテーマはアメリカの世界戦略の中で、米軍の再編と東北アジアである。しかし私はそのテーマを(韓米・日米)同盟の再編との視点に少し変えて話そうとする。

0 私の話はアメリカの主導している同盟の再編・強化の現状、そしてそれに基づいて今後の展望や日韓両国の市民連帯の課題にフォーカスがあるが、だからこそ「過去への回想」が含まれると思う。

### 2. イミョンバック政権とブッシュ政権の同盟政治：「21世紀戦略同盟」

0 韓国のイ・ミョンバック政権は、ブッシュの「ABC(Anything But Clinton)」政策のように、前政権の政策をすべて否定しようとしている。

--> 「ABR(Anything But Roh)」

- 勿論、韓国で相当なコンセンサスを持っている「対北朝鮮包容政策」を全体的に変えることはできないと思う。

- しかし、大事な時期に韓国が自分の役目を果たさなく、チャンスを失ってしまうかもしれないという不安が広がっているのは現実--> 「シンガポール(Singapore)会談」の合意(4月)

0 もうひとつはアメリカの主導している同盟の再編である。アメリカが東アジアの管理のため

---

<sup>1</sup> 植民地時代に日本の帝国主義や軍国主義に協力した人物の名前とその行為を記録する辞書。民間の研究所である「民族問題研究所」がその編纂を主導している。

<sup>2</sup> 「進歩新党連帯会議」の声明(2008. 04. 29.)

に日米同盟を機軸にした同盟政治を再編・強化している。

-->在日米軍、在韓米軍の再編・強化はその戦略の「物的土台づくり」

- 韓国において同盟の再編は、在韓米軍の「戦略的柔軟性 (strategic flexibility)」との言葉で代表されている。

※ 在韓米軍の「戦略的柔軟性 (strategic flexibility)」

1) アメリカの戦略による在韓米軍の再編はアメリカのグローバルな軍事活動を円滑に遂行するために、朝鮮半島以外の地域に在韓米軍を出動させることができるようにすること

2) 軍事的に特に、中国を牽制するために在韓米軍の構造を変えて役割を拡大するとの意味

-->「迅速機動軍化」。その代わりに、朝鮮半島は韓国軍が担当(「戦時作戦統制権返還」)

0 軍事的側面から見て二つの問題に目を注ぐべきである。一つは米軍核戦力の前進・増強配備。もうひとつはミサイル防衛。

- 日本の横須賀への原子力空母の配備(最近になって韓国には原子力空母や原子力潜水艦の出入が増えている。)

- 日米のミサイル防衛協力強化。韓国の国防部の動き

-->1) 前政権が北朝鮮と中国を意識し、参加していなかったアメリカのミサイル防衛に参加しようとする動き<sup>3)</sup>。2) 韓国の海軍がチェジュドに建設しようとしている大規模の海軍基地

0 韓米首脳会談：イ・ミョンバック政権、「アメリカの世界戦略のジュニアパートナー 宣言」

- 「21世紀戦略同盟」とは。

1) 価値同盟(alliance of value) 2) 信頼同盟 3) 平和構築同盟を基軸にしている<sup>4)</sup>。

-->冷戦時代の「米→日→韓Versusロ→中→朝」を中心とした「陣営理論(camp theory)」への回帰の可能性(アメリカンスタンダードに基づいた21世紀型「陣営再構築」論理ではないか。)

- 同盟の幅を経済社会文化までへ-->米国化(Americanization)。同盟の役割を地域へ、さらにグローバルな範囲へ拡大すること。PKO、MD、PSI、アメリカの「テロとの戦い」への参加・支援、在韓米軍の維持費用に対する韓国分担金の増額、在韓米軍基地移転費用に関する韓国分担金の増額

-->韓国がアメリカの覇権維持費用を負担

- 結局、韓国がアメリカの世界戦略のジュニアパートナーになることを公式に確認

- 7月のブッシュ大統領の訪韓-->未来韓米同盟ビジョンの発表の可能性

---

<sup>3)</sup> 韓国はすでにイジス艦の開発や配備を始めた。そして「韓国型MD」との名前でパトリオットミサイルの追加購入や性能改善などのミサイル迎撃システムを開発している。

<sup>4)</sup> 韓国青瓦台が公式に提案した概念である。

-->1996年日米「新安保共同宣言」(橋本&クリントン)との比較

### 3. 日米同盟再編との関係：アメリカを頂点とした米・日・韓「同盟」のトライアングル

#### 0 イ・ミョンバック政権の「韓米日共助」論

- 「左派政権10年」の間、揺らいでいた韓米日の協力の回復-->建前
- しかし韓米同盟を日米同盟のレベルまで引き上げること。韓米日「同盟」ラインの構築本音であると考えられる。

※Victor D. Cha(前ブッシュ行政政府NSC東アジア担当補佐官)：日韓関係は「Quasi-Alliance」

- イ・ミョンバック式「脱亜入欧」？

#### 0 アメリカの構想との関係

- 韓米同盟6段階ロードマップ<sup>5</sup>
  - 1)アジア太平洋安保協議体(Pan Asia Pacific Security Union)
  - 2)韓国のMD、PSI加盟
  - 3)韓国へのアメリカの先端兵器販売
  - 4)朝鮮半島安保システム変革
  - 5)戦時作戦統制権の再交渉
  - 6)経済協力
- 21世紀韓米の「新安保同盟」

※ヘリテージ財団の Bruce Klingner 研究委員：今回韓米首脳会談の韓米同盟に関するイシューの基本的なアメリカの立場を整理した人物として知られている。

- 1)同盟の幅を経済・社会・文化まで拡大
- 2)特に韓米FTA(自由貿易協定)
- 3)韓米同盟強化+日米同盟+台湾、オーストラリア、ニュージーランド、東南アジア(アメリカとの同盟を基盤にする多国間協力システム)

-->中国、ロシアを意識している。

※6か国協議、ARFなどで東アジアの多国間安保協力の可能性が高まっている今現在の情勢とは逆方向ではないのか。

※東北アジアにおいての米軍のプレゼンスを前提条件にしている。軍事力による「Power Politics」で東アジアの持続可能な平和を作ることが出来るのか。

---

<sup>5</sup> 韓国の週刊誌である「シサイン」(2008.04.12.)の記事に基づいているのである。だから、ここで言及している内容がすべて正確なアメリカの戦略とは言えない。でもそのコンテキストはわかると思う。

#### 4. 東アジア平和のための日韓市民連帯の課題

##### 0 日本の戦後体制の矛盾

- 「天皇制」と憲法の平和条項(特に第9条)の共存(→国体護持と憲法9条の交換)
- 「日米安保体制」と憲法の平和条項(特に第9条)の共存(→基地国家か平和国家か)

※東アジア冷戦構造の登場によった「逆コース (Reverse Course) 」の結果

- >平和憲法の無能力化
- >脱冷戦とともに、その矛盾の「Big Bang」
- >真の平和国家に進んでいくことができるのか。

##### 0 韓国

- 帝国主義の被害国から冷戦による分断国家へ
- 戦争、分断-->反共戦線国家
- 独裁政権から民主化へ、アメリカとの関係・北朝鮮との関係に対する見直し
- >保守の反撃、富国強兵への欲望
- >植民、戦争、分断の記憶に基づいて平和国家に進んでいくことができるのか。

1)在日米軍と在韓米軍の再編過程を阻止するための日韓連帯の強化

2)日本の憲法改悪阻止は、アメリカの新軍事戦略による米軍の世界的再編戦略にブレーキ

3)東北アジアの平和のための具体的な市民的代案を作り出して行く必要

- 非核化モデル、軍縮モデル

4) 韓国と日本が、アメリカとの同盟の政治から脱して東北アジア軍縮と平和のシステムを作り上げるためのイニシアチブを発揮するように

※国境を乗り越えた植民、戦争、被爆、分断の記憶のコミュニケーション